

特 集

令和7年度植物防疫事業の推進

兵庫県農業改良課環境創造型農業推進班 2

<農業改良課情報>

農業の安全・適正使用に向けた取り組みについて 4

<試験研究情報>

令和7年度病害虫関係試験研究の取り組み

虫害編及び農薬編 5

病 害 6

<県植防情報>

上程の4議案を可決承認—第65回通常総会— 7

新農薬等展示ほ53件の設置が決定 12

<連載>

「植物防疫基礎講座」 — 野菜のふしぎ — (第27話 チンゲンサイの不思議)

永井 耕介 13

— 田畑の草くさ —

丸葉縷紅 (マルバルコウ)

ヒルガオ科サツマイモ属の一年生蔓性草本。左巻きでその茎は3mにもなり、他の植物や垣、放置してある農機具にまで、あらゆるものに絡みつく。夏に直径2cmほどの、上から見ると五角形の朱紅色の花を多数つける。

同属近縁種に「縷紅草」がある。「縷」とは、細々と繋がる糸筋のことをいい、縷紅草の葉が細いものが繋がった魚の骨格標本のようなことから名づけられとされるが、そうすると丸く先端の尖ったハート型の葉である「丸葉縷紅草」が当てはまらない。では「縷」は3mにもなる絡み合う蔓のことかとも思うが、そうすると今度は、同属他種の「アサガオ」にも「縷」が欲しいところである。

縷紅草は江戸時代初期の寛永年間に、マルバルコウは江戸末期の嘉永年間に持ち込まれたという。持ち込まれて今までの間に、縷紅草は園芸種として家々の垣やグリーンカーテンとして栽培されるようになり、マルバルコウは大豆やトウモロコシに縦横無尽に絡みつぎ、覆い被さるまでになった。

縷紅草はその葉の妙で園芸種となった。盛夏に青々とした細やかな葉は涼しげであるし、その中に浮かぶ赤や白の星型の花も、暑さを忘れさせてくれる。そんな縷紅草は夏の季語でもあり、多くの俳人が吟じている。松山の俳人、石田波郷の療養中の句。

病人の汗は流れず縷紅草

看護婦と茶飲咄や縷紅草

一方の、マルバルコウはありきたりの葉の故にか雑草化した。珍品とされ土手や法面に蔓を伸ばしている間は五角形の花も可愛いが、大豆畑へ入り込むと憎くもなってくる。

縷紅草とマルバルコウ、その葉の形状だけで園芸種か雑草種かの道が決まったのであろうか。因みに、マルバルコウの花言葉は「紙一重」、である。(健)

令和7年度植物防疫事業の推進

本県では、①農業生産の安定、②県民等の食と農を通じた安全の確保を目的として、「病害虫発生予察管理事業」、「農薬安全対策事業」を柱とした植物防疫事業を推進しています。

安全で良質な農産物の安定的な生産・供給、環境と調和した農業の実践を図るため、発生予察情報の提供や環境負荷が小さく効率的な病害虫防除対策を推進するとともに、農薬取締法など関係法令の周知、農薬の適正かつ安全な使用に関する指導・取締りを行います。

《事業の主な内容》

1 病害虫発生予察管理事業

稲・麦・大豆をはじめ、主要な農作物の病害虫の発生状況を調査し、発生時期、発生量を予測して、効率的な防除に役立てるための予察情報を提供するとともに、より適正な防除のため、農作物病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

をWEB上で公開しています。



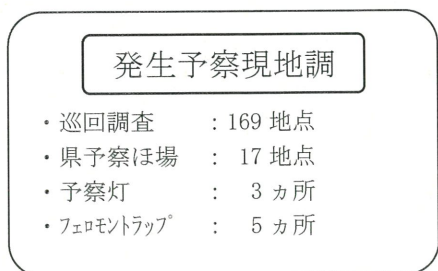
携帯からもアクセス可能

また、化学合成農薬に依存した病害虫防除から、病害虫の発生そのものを予防することに重点を置き、予察情報等により発生を予測した上で、その発生状況に応じて必要な措置を講じる「総合防除」を推進するため、生物的防除(天敵等)、物理的防除(黄色蛍光灯利用等)及び耕種的防除(作期の調整等)等の多様な防除方法の組合せによる総合防除技術の確立を図ります。

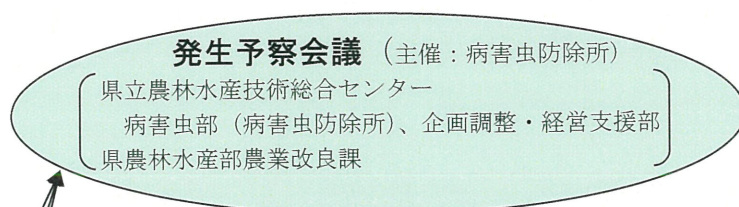
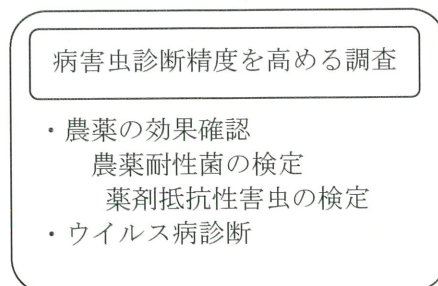
【病害虫発生予察】

- ・対象作物数：12作物
- ・対象病害虫数：163病害虫(延べ)

病害虫発生予察フローチャート



病害虫防除員による調査(46名)



的確な発生予察情報の提供
(予報、注意報、警報、特殊報)

農業協同組合等農業団体
市町
農林水産省・他府県等
報道機関

農林(水産)振興事務所
農業改良普及センター
病害虫防除員

適切な防除の実施

〈令和6年度予察情報発表実績〉

発生予報	注意報	特殊報
8回 (4/23、6/10、 7/12、8/6、 9/9、10/7、 11/8、3/10)	5/2 果樹カメムシ類 8/2 斑点米カメムシ類 8/13 果樹カメムシ類 10/4 ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ 11/8 オオタバコガ	12/24 メロン退 緑黄化 病

※警報の発表はありませんでした

2 農薬安全対策事業

農薬の安全かつ適正な使用の徹底を図るため、講習会・研修会の開催や農薬管理指導士の認定、無登録農薬の使用禁止やポジティブリスト制度及び短期暴露評価制度の周知などにより、より一層の農薬使用基準の遵守を推進します。

また、農薬販売者・防除業者・ゴルフ場等への指導・取締りを実施します。

事業名等	事業内容	主な実施地区 または対象等
農薬安全 使用対策	(1) 農薬安全使用技術講習会の開催（オンライン研修）	販売業者、市町、J A、 農薬使用者等
	(2) 産地・生産部会等での農薬安全使用講習指導	県内全域
農薬指導 取締対策	(1) 農薬販売業者等立入指導取締（立入検査約200件）	販売業者数 2,794販売所 防除業者数 1,212事業者
	(2) ゴルフ場立入指導（立入検査約30件）	ゴルフ場数 150カ所
	(3) 農薬管理指導士認定研修 認定状況 1,745人(R7.3.31現在)	県内全域

【兵庫県農薬危害防止運動について】

兵庫県では農薬による事故防止等を目的に、農林水産部、保健医療部及び環境部などの緊密な連携のもと「兵庫県農薬危害防止運動」を実施し、農薬使用において遵守すべき事項の周知徹底と農薬の取扱いについての指導を実施します。

実施期間：6月1日～8月31日（6月1日～7月31日は重点月間）

（1）広報活動による啓発宣伝（右図）

ポスター等を活用した広報活動により普及啓発。

運動のテーマは「使用前、周囲よく見てラベル見て」に設定しています。

（2）医療機関との連携

ア 事故者の処置体制

「農薬中毒の症状と治療法」等の資料によって応急措置等について周知徹底しています。

イ 事故の把握

健康福祉事務所、医療機関などと連携を密にし、事故状況の把握に努めています。

（3）農薬の取扱いについての指導

農薬販売業者、防除業者、ゴルフ場関係者、生産者などの農薬使用者に対して、関係法令等の遵守徹底を図るとともに、販売、保管管理、使用状況等を検査し、違法行為が発見された場合は、改善措置を講じます。



令和7年度農薬危害防止運動ポスター

〈農業改良課情報〉

～農薬の安全・適正使用に向けた取り組みについて～

農薬は、農作物を病虫害等から守り、安定した生産を確保するために有効な手段であり、国において安全性の評価を行い、問題ないと判断された農薬のみが登録されています。

一方、使用方法を誤ると、効果が得られないばかりか、人畜、農産物や水域の生活環境動植物等に被害を及ぼすおそれがあります。

このため、農薬による事故を未然に防止するとともに、農薬の適正かつ安全な使用を図り、効率的な防除を推進するため、兵庫県では毎年、農薬安全使用に関する講習会を開催しています。

また、自らが農薬を適正使用するとともに、地域で農薬の取扱いについて指導的役割を果たす人材（農薬管理指導士）を育成するため、認定のための研修と試験を毎年実施しています。

〈農薬安全使用技術講習会〉

農薬に携わる方を対象に農薬の適正使用に関することや、効果的・効率的な農薬の使い方について講習会を実施。受講を容易にするため、令和4年度から動画視聴による受講方法で実施しています。

（令和7年度開催予定）

実施期間：令和7年7月28日（月）～9月18日（木）

受講方法：期間内に講義動画を視聴

受講者数：約100名

〈農薬管理指導士認定特別研修及び認定試験〉

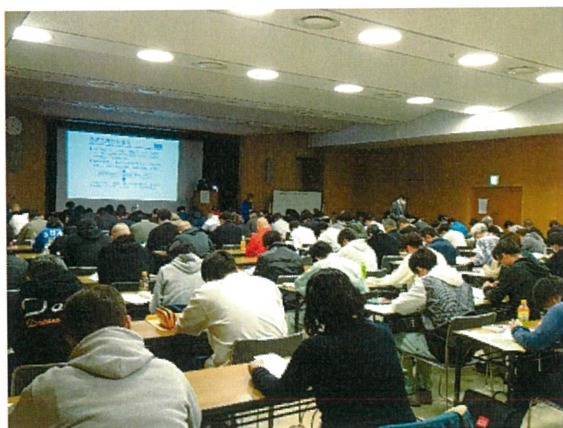
毎年11月下旬～12月上旬に特別研修及び認定試験（2日間）を行い、一定の知識の定着が認められた者を「農薬管理指導士」として認定しています（3年毎に更新が必要）。行政手続きオンライン化の一環として令和5年度からデジタル認定証を発行しています。

（令和7年度特別研修及び認定試験開催予定）

実施時期：令和7年12月9日（火）、10日（水）

開催場所：兵庫県立のじぎく会館（神戸市中央区）

対象者：農薬販売業者、防除業者、ゴルフ場管理者、生産者団体等



令和6年度農薬管理指導士認定特別研修



デジタル認定証

令和7年度病害虫関係試験研究の取り組み

－ 虫害編及び農薬編 －

令和7年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

1. 省力的なIPMを実現する水稻病害虫予報技術の開発 (R4～8)

病害虫の発生予測にメッシュ農業気象データシステムを利用することで、1km²毎の詳細な気象データや予測データが入手できるため、地域毎の病害虫の発生を予測できる可能性がある。水稻害虫についてメッシュ農業気象データシステムを利用した発生予測モデルの開発が進んでおり、モデルの検証を進めている。昨年に引き続き、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ及びアカスジカスミカメを対象として、水田内での発生活動を把握し、モデルとの整合性について検討する。また、スクミリンゴガイについても、冬期の気象データと水田内の発生密度や被害発生状況との関連を調べる。

2. 振動を応用した果菜類の新たな受粉促進・害虫抑制技術の開発 (R5～9)

兵庫県ではこれまで、特定の周波数の振動を植物に与えることで、コナジラミ類の密度抑制や作物の受粉促進を可能とする新たな物理的防除手段の確立に取り組んできた。本課題では、コナジラミ類に加え、アザミウマ類やハダニ類等のイチゴ主要害虫への防除効果を検証するとともに、捕虫シート等の併用による総合防除法を確立し、現地実装を目指している。本年度は、リーフディスク試験でアザミウマ類・ハダニ類の密度抑制に有効であった振動条件を、実際のイチゴ株でも有効か検証する。またイチゴの高設栽培施設において、アザミウマ類・ハダニ類の天敵製剤の体系防除との併用による密度抑制効果を検証する。

3. リバイバル害虫イネカメムシの生態解明と防除技術の検討 (R7～9)

近年、イネカメムシが全国的に再多発し、兵庫県においても不稔による減収や、斑点米による品質低下が大きな問題となっている。本種の生態については不明な点が多いため、本課題では、水稻栽培環境でのイネカメムシの行動生態や水田での発生生態を明らかにし、薬剤防除や耕種的対策等による効果的な防除対策を確立することを目的とする。本年度は、インターバル撮影によるイネカメムシの行動生態の解明、水田での発生実態の解明および有効な薬剤（散布剤および粒剤）の選定を実施する。

4. 水稻における粒剤処理後の稲体内の農薬成分量の推移 (R7)

近年問題になっているイネカメムシへの省力的な防除方法として、粒剤が用いられており、一定の防除効果が見られている。しかし、現状では、効果を発揮する十分量の農薬成分が、処理後どの程度の期間で穂へ移行するかの詳細なデータは明らかにされていない。このため、想定される出穂期に対して、どの時期に粒剤を処理すべきかが明確となっていない。本研究では、カメムシ類を対象に使用される粒剤を水稻に処理し、経時的に稲体をサンプリングし、穂に含まれる農薬成分濃度を分析することで、処理後どの程度の期間で成分濃度が最大になるか、また、成分濃度がどの程度の期間、稲穂の中に維持されるかを明らかにする。

(兵庫県立農林水産技術総合センター

農業技術センター病害虫部 西口・柳澤・富原・阪上・矢崎

淡路農業技術センター農業部 岩橋)

令和 7 年度病害虫関係試験研究の取り組み

- 病害編 -

令和 7 年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

1. 県産タマネギ安定生産に向けた細菌性病害防除技術の開発 (R6～9)

タマネギ生産において、近年、立毛中並びに収穫・貯蔵中に細菌性病害（腐敗病・軟腐病）による腐敗が増加傾向にある。タマネギ細菌性病害は他の病害と異なり、数種類の病原菌が関与していることが知られており、これまでの検討により、淡路島のタマネギ産地で発生が見られる細菌性病害は少なくとも 6 種類以上の菌種が関与していることが明らかとなった。また、これらの病原菌の加害時期には季節性が見られ、タマネギの生育ステージによって優占する加害種に変化が見られた。これら結果と既存防除薬剤との組み合わせの検証を行い、より防除結果の期待できる薬剤体系を構築する。さらに薬剤に依存しない防除技術として湛水の効果について検証を行う。

2. 省力的な I P M を実現する水稻病害虫予報技術の開発 (R4～8)

水稻栽培において個々の圃場における病害虫の発生リスクを把握し、適期に効果的に防除する技術が求められている。そこで、水稻病害のうち近年問題となっているもみ枯細菌病について、発生を助長する環境パラメータを接種試験により検討した。その結果、本病は出穂期＋4 日間（計 5 日間）の降雨日数が 2 日以上である場合に発病を促進するが、短時間での降雨（通り雨やゲリラ豪雨など）では発病促進にほぼ影響を与えないことが分かった。この条件を基に本病の発生時期や量を推定し、ユーザーに適切な防除時期を知らせるスマホアプリの開発を進める。

3. 蒸気を用いた新規水稻種子消毒法による水稻種子伝染性病害防除法の開発 (R4～8)

水稻種子伝染性病害（いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病及びごま葉枯病）は、これまで化学農薬により発生が抑えられてきた。しかし、ばか苗病の薬剤感受性低下が確認され、実用的に使用可能な化学農薬は 2 剤に限定された。一方、化学農薬を用いない温湯種子消毒は、処理後の種子はぬれた状態にあるため、各病害とも再感染するリスクがある。そこで、この問題を克服し、更に効果が高い種子消毒法として蒸気を用いた新規種子消毒法を開発する。

今年度は、前年度に引き続き、実用化に向けた大容量処理の 4 病害の抑制への影響、発芽および初期生育への影響の検討などを実施する。

4. 新たな発病リスク診断に基づく土壌伝染性大豆病害の総合防除技術の開発 (R7～9)

大豆生産において、茎疫病など土壌伝染性大豆病害の被害と開花期の高温乾燥が引き起こす着莢不良による収量低下、品質低下が問題となっている。病害対策では水稻などとの輪作による伝染源密度低減が有効だが、各ほ場の経年的な被害程度の把握には労力がかかる。一方、大豆の開花期である夏季は近年、高温化が顕著であることから高頻度の灌水が必要であるが、慣行の畝間灌水は滞水により土壌病害を誘発し易いリスクがある。そこで、ドローンセンシングを活用した大豆土壌病害のリスク診断技術の開発および土壌病害を誘発しない灌水方法を検討する。

（兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター
病害虫部 西口・松本・岩本・村上・山田・矢崎）

上程の４議案を可決承認 －第６５回通常総会－

兵庫県植物防疫協会では、第６５回通常総会開催形式を書面による表決としました。

総会に提出された(１)令和６年度事業報告並びに収支決算、(２)令和７年度事業計画並びに収支予算、(３)令和７年度会費賦課、(４)顧問及び参与の選任、以上４議案はすべて原案どおり承認されました。

令和７年度事業計画並びに収支予算は、次のとおりです。

I 事業計画

1 受託試験事業関係

(１) 新農薬等展示ほ試験

登録農薬の普及推進並びに防除技術の向上を図るとともに、兵庫県における防除指導指針等の参考に供するため、(公財)日本植物調節剤研究協会及び賛助会員から申し込みのあった新農薬等の展示ほを県下各地に設置し、県関係機関の協力により効果試験を行う。

また、その検討会等を賛助会員及び県関係機関の参集のもと、次のとおり開催する。

検 討 会 等	開 催 月 日	開 催 場 所	参集人員
新農薬展示ほ設置打合せ	R 7 年 4 月 11 日	兵庫県農業共済会館	4 5 名
新農薬展示ほ調査成績中間検討会	R 7 年 11 月中旬	兵庫県農業共済会館	5 0 名
新農薬展示ほ調査成績検討会	R 8 年 3 月上旬	兵庫県農業共済会館	5 0 名

(２) 新農薬実用化試験

新規開発農薬の登録に必要な薬効、薬害及び作物残留試料調製試験並びに除草剤・生育調節剤の適応性判定の試験と県内での適応性等を検討するため、(一社)日本植物防疫協会及び(公財)日本植物調節剤研究協会からの委託試験を県関係機関の協力を得て実施する。

2 一般事業関係

(１) 植物防疫に関する研修

ア 農薬管理指導士認定研修会

農薬の適正かつ安全な使用を推進するための認定制度に基づき、兵庫県が開催する農薬管理指導士認定研修会の開催に協力する。

(ア) 時 期 令和 7 年 1 2 月 9 日・1 0 日の 2 日間

(イ) 場 所 神戸市 県立のじぎく会館

(ウ) 受講見込 1 0 0 名

(2) 植物防疫推進表彰

病虫害発生予察、防除対策及び農薬安全使用など植物防疫の推進において功績のあった団体及び個人について表彰してきたが、近年、推薦団体等の減少をうけて、昨年度より5年に1度の開催に改めた。

これにより、表彰に係る候補者調書の提出期間を一定期間設けることができ、表彰点数、表彰内容の充実等を図るものとする。

(3) 植物防疫に関する広報活動

ア 兵庫県植物防疫情報

本県における植物防疫に係る情報を「兵庫県植物防疫情報」として年2回発行する。

(ア) 発行時期 令和7年7月、令和8年3月

(イ) 配布先 会員及び県関係機関（電子メールで配信）

イ 農作物病虫害・雑草防除指導指針

農薬の適正・安全使用を図るため、兵庫県が「農作物病虫害・雑草防除指導指針」をホームページ上で公開している。協会はこの情報収集に積極的に協力する。

Ⅱ 令和7年度収支予算書

Ⅰ 収入の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科 目	予算額
1 会費収入	2,550	2 事業収入	17,655	4 雑収入	23
正会員会費収入	1,600	共同印刷収入	0	受取利息収入	13
賛助会員会費収入	950	無人ℳ受託収入	0	雑収入	10
		展示ℳ受託収入	2,332		
		委託試験受託収入	15,323	当期収入合計	20,485
				前期繰越収支差額	9,595
		3 補助金等収入	257		
		団体補助金収入	257	収入合計	30,080

Ⅱ 支出の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科 目	予算額
1 事業費支出	16,866	2 管理費支出	3,617	3 固定資産取得支出	1
給料手当支出	2,800	給料手当支出	1,300	什器備品購入支出	1
会議費支出	163	会議費支出	49		
旅費交通費支出	374	旅費交通費支出	36	4 業務引当金支出	1
通信運搬費支出	38	通信運搬費支出	195	業務引当金繰入支出	1
備用品費支出	388	備用品費支出	65		
修繕費支出	1	修繕費支出	1	5 予備費支出	9,595
印刷製本費支出	110	印刷製本費支出	1	予備費支出	9,595
賃借料支出	1,922	光熱水料費支出	186		
委託費支出	11,040	賃借料支出	555		
雑支出	30	保険料支出	26		
		諸謝金支出	220		
		租税公課支出	908		
		負担金支出	65		
		雑支出	10		
				当期支出合計	30,080

兵庫県植物防疫協会役員等名簿

令和7年7月1日現在

【役員】

役職等名	氏名	所 属
会長理事	吉本知之	兵庫県農業共済組合 組合長理事
副会長理事	福本博之	兵庫県農業協同組合中央会 代表理事会長
理事	堂本英之	全国農業協同組合連合会兵庫県本部 県本部長
〃	中前和巳	兵庫県信用農業協同組合連合会 常務理事
監事	荒木一聡	公益社団法人 ひょうご農林機構 兵庫県農業会議会長
〃	古川博之	兵庫県農薬卸商協同組合 理事長
運営委員	河野光裕	兵庫県農業共済組合 参事
〃	大盛雅之	兵庫県農業協同組合中央会 営農支援部長
〃	桐山裕史	全国農業協同組合連合会兵庫県本部 県副本部長
〃	西村稔幸	兵庫県信用農業協同組合連合会 常務理事
〃	渡邊直樹	公益社団法人 ひょうご農林機構 常務理事
〃	山内博司	兵庫県農薬卸商協同組合 専務理事

【顧問・参与】

役職等名	氏名	所 属
顧問	秋月麻美	兵庫県農林水産部農業改良課長
〃	牧浩之	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター所長
参与	下野真喜	兵庫県農林水産部農業改良課環境創造型農業推進班主幹(植物防疫担当)
〃	堀川道信	兵庫県立農林水産技術総合センター次長兼企画調整・経営支援部長
〃	杉本琢真	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部長
〃	望月証	兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター病害虫部長兼病害虫防除所長

【職員】

役職等名	氏名	所 属
事務局長	池本真人	兵庫県農業共済組合 事業部長
事務局次長	上田章仁	兵庫県農業共済組合 事業部農産課長
事務局次長	林義祝	兵庫県農業共済組合 事業部農産課
技術相談役	河野哲	兵庫県植物防疫協会
試験調査員	松本功	〃
〃	奥井宏幸	〃
〃	森本秀樹	〃
〃	山田剛士	〃
事務局書記	松尾利恵	兵庫県農業共済組合 事業部農産課

※下線部は新任者

兵庫県植物防疫協会賛助会員名簿

アグロ・カネショウ(株)	サンケイ化学(株)	バイエルクロップサイエンス(株)
アリスタライフサイエンス(株)	信越化学工業(株)	BASFジャパン(株)
石原バイオサイエンス(株)	シンジェンタジャパン(株)	北興化学工業(株)
井上石灰工業(株)	住友化学(株)	丸和バイオケミカル(株)
(株)エス・ディー・エスハイオテック	コルテバ・アグリサイエンス日本(株)	三井化学クロップ&ライフソリューション(株)
OATアグリオ(株)	日産化学(株)	米澤化学(株)
科研製薬(株)	日本化薬(株)	エフエムシー・ケミカルズ(株)
協友アグリ(株)	日本曹達(株)	(一社) 日本植物防疫協会
クミアイ化学工業(株)	日本農薬(株)	

兵庫県植物防疫関係者について（令和7年7月1日現在）

このたびの定期人事異動により植物防疫関係者は次のとおりとなりました。
今後ともよろしくお願いいたします。

1 兵庫県農業改良普及センター植物防疫担当者

神戸	武部 加奈子	豊岡	大浦 蓉香
阪神	二階堂 悠 憲	新温泉	湯澤 孝 哉
加古川	藤川 淳 平	朝来	國本 美 咲
加西	堀 邊 真 由	丹波	平田 七 海
姫路	山川 勇 輔		長谷川 陽 紀
光都	深田 準之助	南淡路	小寺 哲 平
	岸 麻理奈	北淡路	橘 由 菜
龍野	山中 愛 梨		

2 兵庫県農林水産部農業改良課環境創造型農業推進班

主 幹	下 野 真 喜	主 査	本 田 理
-----	---------	-----	-------

3 兵庫県立農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部

専門技術員	九 村 俊 幸
〃	戸 田 一 也

4 兵庫県植物防疫協会

事務局 長	池 本 真 人
事務局 次長	上 田 章 仁
事務局 次長	林 義 祝
事務局 書記	松 尾 利 恵

新農薬等展示ほ53件の設置が決定

令和7年4月11日（金）に、神戸市の農業共済会館において、県農業改良課、県立農林水産技術総合センター、農業改良普及センターおよび正会員であるJA全農兵庫、県農薬卸商組合、県植防賛助会員に参集いただき、「令和7年度新農薬等展示ほ設置打合せ会」を開催しました。

本年度の展示ほ設置状況は、除草剤関係が20件で昨年度より12件減少しました。殺虫剤関係は、21件で昨年度より6件増加しました。殺菌剤関係は、5件で昨年度より7件減少しました。混合剤等は、7件で昨年度より3件増加しました。その結果、本年度は合計で53件の展示ほ設置件数となりました。

令和7年度 新農薬等展示ほ設置状況

	除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤等	合計		除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤等	合計
神戸	3				3	新温泉	1	2		1	4
阪神	2	5			7	朝来				1	1
加古川	3	1			4	丹波	3	6		2	11
加西	1	1	1		3	南淡路		3			3
姫路				1	1	北淡路		1			1
光都				1	1	兵植防	6	1	4	1	12
龍野		1			1						
豊岡	1				1	合計	20	21	5	7	53

植物防疫基礎講座



野菜のふしぎ



— 第 27 話チンゲンサイの不思議 —

農学博士 永井 耕介

「チンゲンサイ（青梗菜）」は中国野菜の中で、最も親しまれている野菜なのではないでしょうか。チンゲンサイは中華料理には欠かせない具材で、現在、中国で栽培されている葉物野菜の約 6 割はチンゲンサイのようです。では、どんな野菜が中国野菜とよばれているのでしょうか。

日本で広く栽培されている中国原産の野菜としてはハクサイ、カラシナ、ネギなど多くありますが、中国野菜とは言われていません。中国原産または中国で品種改良され栽培されている野菜の中で、20 世紀以降に導入されたものを日本では中国野菜と呼んでいるのです。多くの中国野菜は日中国交正常化の後の 1970 年以降に導入されています。チンゲンサイ以外にもパクチョイ、ターサイ、エンツアイなどがありますが、チンゲンサイが最も有名で、多く栽培されています。

栄養面をみると、チンゲンサイにはビタミン C、β カロチン、カルシウム、カリウム、鉄分、食物繊維等が多く含まれています。ビタミン C は皮膚や軟骨などの構成成分であるコラーゲンの生成に不可欠なビタミンで、肌のしわを防いだり傷などの治りをよくする効果が期待できます。

また、β カロチンは抗酸化力が高く、必要に応じて体内でビタミン A に変換されて、免疫力が高まります。ビタミン A には皮膚やのど、鼻などの粘膜を丈夫にする働きがあります。中華料理では必ずと言って良いほど油を使いますね。チンゲンサイを高温でさっと炒めるとビタミン C の損失は少なくすみ、その上、β カロチンは油に溶けやすいので、体内への吸収も容易になります。

カルシウムは人の体重の 1 から 2%を占め、体内で最も多く存在する重要なミネラルです。体内ではカルシウムの約 99%が骨や歯に含まれています。カルシウムが不足すると

骨がたちまち弱くなり、骨折や骨粗しょう症を引き起こす可能性が高まります。また、カリウムには、腎臓でナトリウムが過剰に吸収されるのを抑制し、尿への排泄を促す働きがあります。そのため、カリウムには血圧の上昇を抑制し、高血圧を予防する効果が期待できます。

品質の良いチンゲンサイとは①切り口の褐変程度の少ないもの（新鮮度の目安）、②葉は鮮やかな緑色で、つやのあるもの。③軸の部分は肉厚で重みのあるものです。

また、良い品質を保つ方法としては①ポリエチレン袋に入れ（乾燥防止）、②可能であれば 5℃以下の低温（栄養、機能成分の減少防止）が有効です。チンゲンサイはアクがなく、煮崩れしにくいので、炒め物のほかにも、スープや煮込み料理にも適しています。

県内でも美味しいチンゲンサイが各地で栽培されています。健康増進にも役立つチンゲンサイを是非ご賞味ください。



兵庫県では淡路から但馬まで多様な気候風土の中、「チンゲンサイ」や「ソラマメ」など地域特産農産物が作られています。それらは色、形も多様で食べる人の目を楽しませてくれます。また、緑（葉緑素）、橙（βカロチン）、赤（リコピン）、紫（アントシアニン）等それぞれの色素が目を楽しませるだけでなく、身体の健康を維持する種々の機能成分であることも明らかになってきました。

私は北部農業技術センターで長年、野菜や果物の味や栄養価さらには鮮度保持の技術を研究してきた「トマト博士」です。これから紹介する県内の特産農産物のすばらしさを感じていただければ、また、1つでも「へー」と思われることがあればうれしいです。

（元兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター 農業加工流通部長）

【編集後記】

今年度の植防情報 No.1 をお届けいたします。

ここ数年の異常気象で今年は5月から夏日を記録し、近畿地方では6月に例年より3日遅く梅雨入りとなり、地域差はあったものの全体的に2週間程のぐずつきで22日も早く梅雨明けとなりました。九州地方では雷を伴う局地的な豪雨があり、地域によって降水量のばらつきがみられました。

また、毎日報道されているお米の高騰、新米が出れば値段は落ち着くと言われていますが、この異常気象でお米だけではなく、すべての作物で満足な収穫が見込めるのか、不安がつのるばかりです。この現状に農家様のご苦勞が予想でき、私たちの食卓にも影響することでしょう。自然には太刀打ちできない歯がゆさだけが残る今日この頃です。

そんな不安をよそに、大阪関西万博は大賑わいですがこの暑さで熱中症回避の為、並ぶことを制限され思うようにパビリオンに入れず、暑さだけを体験し会場を後にする方も大勢いらっしゃるようです。それでも一度は行きたいと思っておられる方は、夕方からの入場でも万博の雰囲気はしっかり味わえると思うのでおすすめです。

皆様にはお体を十分にご自愛なされまして、お互いにこの暑い暑い暑い夏を乗り切れればと思います。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

(M)

兵庫県植物防疫協会 今後の予定

令和7年

11月10日

新農薬展示ほ調査成績中間検討会

兵庫県農業共済会館

発行元

兵庫県植物防疫協会

神戸市中央区下山手通 4-15-3

TEL 078-332-7144

FAX 078-332-7152

e-Mail hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp

